



法人企業景気予測調査

(令和3年7～9月期調査)

山梨県分

令和3年9月13日

**財務省関東財務局
甲府財務事務所**

《お問合せ先》

甲府財務事務所財務課

TEL : 055-253-2261 (内線2515)

FAX : 055-253-3310

ホームページ : <http://kantou.mof.go.jp/kofu/>

<http://kantou.mof.go.jp/> (関東財務局)

<https://www.mof.go.jp/> (財務省)

目 次

調査要領等	1
概 況	2
1. 企業の景況	3
2. 企業収益・設備投資	6
3. 雇 用	7
4. 国内の景況	8
5. 設 備 判 断	9
6. 設備投資の対象	10
7. 大規模災害や感染症等による 事業中断リスクに備えた取組	11
<参考資料>企業収益の全業種集計	12

《調査要領等》

1. 調査時点	令和3年8月15日
2. 調査の対象期間	
(1) 判断項目	令和3年7～9月（又は9月末）は現状判断 令和3年10～12月（又は12月末）、 令和4年1～3月（又は3月末）は見通し判断
(2) 計数項目	令和3年度は実績見込み
3. 調査対象の範囲及び選定方法	
	山梨県に所在する資本金、出資金又は基金（以下、資本金という。）1千万円以上※の法人で法人企業統計四半期別調査の対象法人などから一定の方法により選定。なお、資本金30億円以上の法人については全数を選定。 ※「電気・ガス・水道業」及び「金融業、保険業」は資本金1億円以上の法人から選定。
4. 調査の方法	調査票による郵送またはオンライン調査（自計記入による）
5. 集計の方法	法人企業統計の業種分類による単純集計

《調査対象法人・回収率》

	規模別			業種別		合計
	大企業	中堅企業	中小企業	製造業	非製造業	
対象法人数	17	31	53	41	60	101
回答法人数	17	29	40	38	48	86
ウェイト(%)	19.8	33.7	46.5	44.2	55.8	100.0
回収率(%)	100.0	93.5	75.5	92.7	80.0	85.1

(注) 1. 大企業：資本金10億円以上

中堅企業：資本金1億円以上10億円未満

中小企業：資本金1千万円以上1億円未満

2. 表中のウェイトは、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合がある。

(参考)

<p>BSI（ビジネス・サーベイ・インデックス）の読み方 (例) 「企業の景況」の場合 前期と比べて 「上昇」と回答した法人の構成比・・・40.0% 「不変」と回答した法人の構成比・・・25.0% 「下降」と回答した法人の構成比・・・30.0% 「不明」と回答した法人の構成比・・・5.0%</p> <p>BSI = (「上昇」と回答した法人の構成比・・・40.0%) - (「下降」と回答した法人の構成比・・・30.0%) = 10.0%ポイント</p>

概 況

(1) 企業の景況

現状判断は、「下降」超幅が縮小

(2) 売上高(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)

3年度は、増収見込み

(3) 経常利益(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)

3年度は、増益見込み

(4) 設備投資(除く土地購入額、含むソフトウェア投資額)

3年度は、減少見込み

(5) 雇 用

現状判断は、「不足気味」超幅が拡大

(6) 国内の景況

現状判断は、「下降」超幅が縮小

(7) 設備判断

現状判断は、「不足」超に転じる

※いずれも全規模・全産業ベース

1. 企業の景況

－ 現状判断は、「下降」超幅が縮小 －

3年7～9月期の企業の景況判断BSIをみると、全規模・全産業ベースで「下降」超幅が縮小している。

これを規模別にみると、大企業は「上昇」超から均衡となり、中堅企業は「下降」超に転じ、中小企業は「下降」超幅が縮小している。

また、業種別にみると、製造業は「上昇」超から均衡となり、非製造業は「下降」超幅が縮小している。

先行きについては、大企業は10～12月期に「上昇」超に転じる見通し、中堅企業は10～12月期に均衡となり、1～3月期に「上昇」超に転じる見通し、中小企業は「下降」超で推移する見通しとなっている。

《表1》企業の景況判断BSI

(前期比「上昇」-「下降」社数構成比)

(単位:%ポイント)

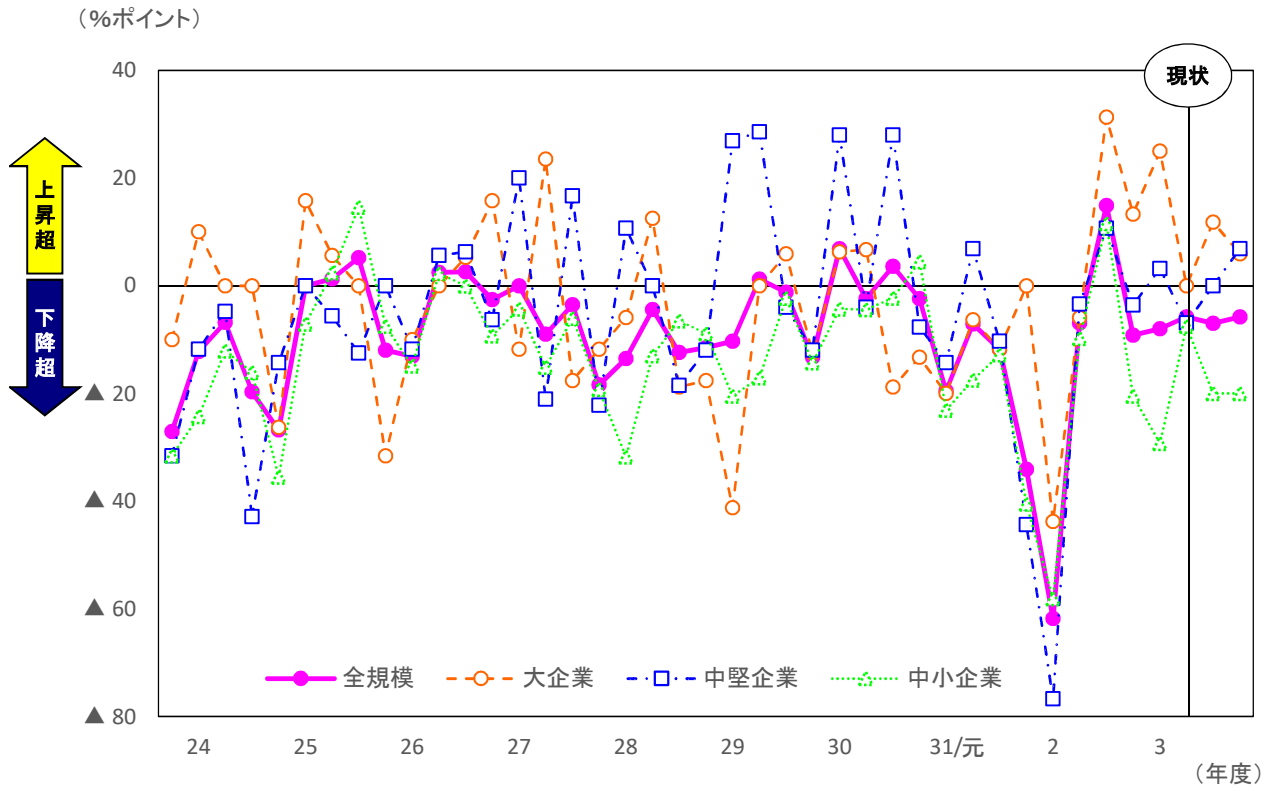
	3年4～6月	3年7～9月	3年10～12月	4年1～3月
全規模・全産業	(▲8.0)	▲5.8 (4.5)	▲7.0 (11.4)	▲5.8
大企業	(25.0)	0.0 (0.0)	11.8 (12.5)	5.9
中堅企業	(3.2)	▲6.9 (16.1)	0.0 (32.3)	6.9
中小企業	(▲29.3)	▲7.5 (▲2.4)	▲20.0 (▲4.9)	▲20.0
製造業	(2.6)	0.0 (7.9)	7.9 (21.1)	7.9
非製造業	(▲16.0)	▲10.4 (2.0)	▲18.8 (4.0)	▲16.7

(注) () 書は前回(3年4～6月期)調査結果。

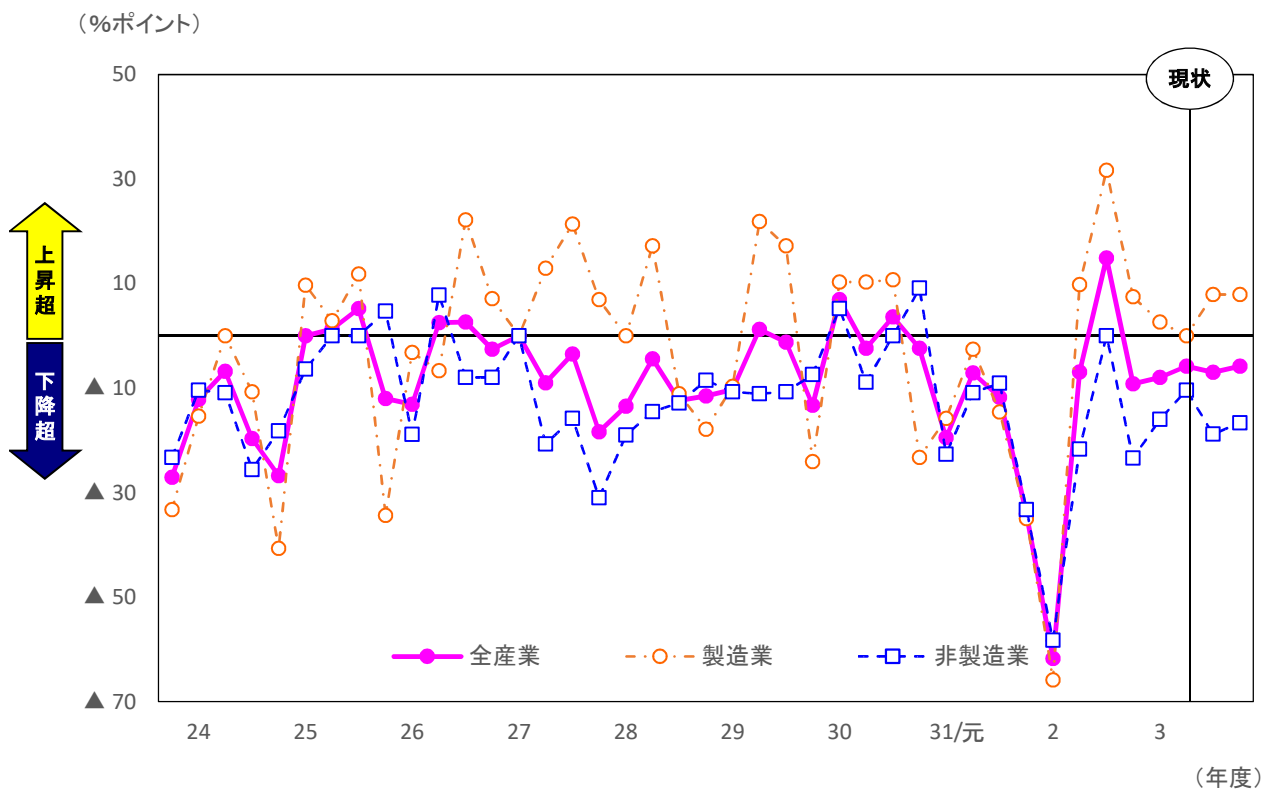
(参考) 寄与の大きい業種

		業 種 名
製 造 業	上 昇	情報通信機械器具製造業 はん用機械器具製造業、自動車・同附属品製造業
	下 降	食料品製造業、繊維工業、金属製品製造業 —
非 製 造 業	上 昇	農林水産業、建設業、卸売業 —
	下 降	娯楽業 情報通信業、小売業、生活関連サービス業

【図1】規模別企業の景況判断BSIの推移



【図2】業種別企業の景況判断BSIの推移



《表2》企業の景況判断の決定要因

(回答社数構成比:%)

		全規模・全産業			製 造 業			非 製 造 業		
		7~9月	10~12月	1~3月	7~9月	10~12月	1~3月	7~9月	10~12月	1~3月
上	①国内需要(売上)	85.0	78.6	92.9	91.7	70.0	90.0	75.0	100.0	100.0
	②海外需要(売上)	35.0	64.3	42.9	50.0	90.0	60.0	12.5	0.0	0.0
	③販売価格	40.0	28.6	42.9	33.3	30.0	40.0	50.0	25.0	50.0
	④仕入価格	25.0	35.7	28.6	33.3	40.0	20.0	12.5	25.0	50.0
	⑤仕入以外のコスト	10.0	14.3	21.4	8.3	10.0	20.0	12.5	25.0	25.0
	⑥資金繰り・資金調達	5.0	7.1	7.1	8.3	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	⑦株式・不動産等の資産価格	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	⑧為替レート	0.0	7.1	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	⑨税制・会計制度等	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	⑩その他	10.0	7.1	21.4	0.0	10.0	10.0	25.0	0.0	50.0
下	①国内需要(売上)	70.8	89.5	72.2	66.7	100.0	85.7	75.0	83.3	63.6
	②海外需要(売上)	20.8	21.1	11.1	41.7	42.9	28.6	0.0	8.3	0.0
	③販売価格	12.5	36.8	33.3	16.7	57.1	14.3	8.3	25.0	45.5
	④仕入価格	33.3	21.1	33.3	41.7	28.6	57.1	25.0	16.7	18.2
	⑤仕入以外のコスト	33.3	15.8	11.1	25.0	14.3	28.6	41.7	16.7	0.0
	⑥資金繰り・資金調達	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0
	⑦株式・不動産等の資産価格	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	⑧為替レート	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0
	⑨税制・会計制度等	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0
	⑩その他	29.2	15.8	11.1	25.0	0.0	0.0	33.3	25.0	18.2

		大 企 業			中 堅 企 業			中 小 企 業		
		7~9月	10~12月	1~3月	7~9月	10~12月	1~3月	7~9月	10~12月	1~3月
上	①国内需要(売上)	75.0	80.0	75.0	100.0	85.7	100.0	77.8	50.0	100.0
	②海外需要(売上)	75.0	80.0	75.0	42.9	57.1	28.6	11.1	50.0	33.3
	③販売価格	50.0	40.0	50.0	28.6	0.0	28.6	44.4	100.0	66.7
	④仕入価格	25.0	40.0	50.0	28.6	28.6	14.3	22.2	50.0	33.3
	⑤仕入以外のコスト	25.0	20.0	50.0	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0
	⑥資金繰り・資金調達	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0
	⑦株式・不動産等の資産価格	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	⑧為替レート	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	⑨税制・会計制度等	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	⑩その他	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	42.9	11.1	0.0	0.0
下	①国内需要(売上)	66.7	100.0	100.0	77.8	85.7	80.0	66.7	90.0	63.6
	②海外需要(売上)	66.7	100.0	50.0	22.2	14.3	0.0	8.3	10.0	9.1
	③販売価格	0.0	50.0	0.0	0.0	28.6	40.0	25.0	40.0	36.4
	④仕入価格	33.3	0.0	50.0	22.2	0.0	20.0	41.7	40.0	36.4
	⑤仕入以外のコスト	33.3	0.0	50.0	44.4	28.6	20.0	25.0	10.0	0.0
	⑥資金繰り・資金調達	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0
	⑦株式・不動産等の資産価格	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	⑧為替レート	33.3	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	⑨税制・会計制度等	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	⑩その他	0.0	0.0	0.0	44.4	28.6	0.0	25.0	10.0	18.2

(注) 1. 「金融業、保険業」は調査対象外。
 2. 10項目中3項目以内の複数回答による回答社数構成比。

2. 企業収益・設備投資

(1) 企業収益（除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」）

－ 3年度は、増収増益見込み －

3年度の「売上高」は、全規模・全産業ベースで前年比25.1%の増収見込み、「経常利益」は、同84.0%の増益見込みとなっている。

「売上高」を規模別にみると、大企業は同29.7%、中堅企業は同19.0%、中小企業は同0.8%の増収見込みとなっている。業種別にみると、製造業は同28.1%の増収見込み、非製造業は同0.1%の減収見込みとなっている。

「経常利益」を規模別にみると、大企業は同87.8%、中堅企業は同37.1%、中小企業は同18.6%の増益見込みとなっている。業種別にみると、製造業は同86.0%の増益見込み、非製造業は同4.7%の減益見込みとなっている。

(2) 設備投資（除く土地購入額、含むソフトウェア投資額）

－ 3年度は、減少見込み －

3年度の「設備投資」は、全規模・全産業ベースで前年比6.7%の減少見込みとなっている。

これを規模別にみると、大企業は同3.7%の増加見込み、中堅企業は同16.1%、中小企業は同37.0%の減少見込みとなっている。業種別にみると、製造業は同0.7%、非製造業は同23.4%の減少見込みとなっている。

《表3》企業収益・設備投資（3年度）

（前年比増減率：％）

	売上高	経常利益		設備投資
		（受取配当金を除く）		
全規模・全産業	25.1（ 14.3）	84.0（ 78.3）	91.5（ 86.2）	▲ 6.7（ ▲ 0.7）
大企業	29.7（ 18.2）	87.8（ 85.6）	102.7（ 92.9）	3.7（ 8.9）
中堅企業	19.0（ 15.7）	37.1（ 73.9）	66.8（ 88.3）	▲ 16.1（ ▲ 20.5）
中小企業	0.8（ 1.2）	18.6（ 20.2）	19.9（ 20.7）	▲ 37.0（ ▲ 32.1）
製造業	28.1（ 17.4）	86.0（ 86.2）	101.2（ 95.8）	▲ 0.7（ 3.1）
非製造業	▲ 0.1（ ▲ 0.7）	▲ 4.7（ ▲ 7.4）	▲ 4.8（ ▲ 7.4）	▲ 23.4（ ▲ 20.8）

- (注) 1. () 書は前回(3年4~6月期)調査結果。
 2. 全業種の集計結果については、12ページを参照。
 3. 「金融業、保険業」の売上高は調査対象外。

3. 雇 用

－ 現状判断は、「不足気味」超幅が拡大 －

3年9月末時点の従業員数判断BSIをみると、全規模・全産業ベースで「不足気味」超幅が拡大している。

これを規模別にみると、大企業、中堅企業は「不足気味」超幅が拡大し、中小企業は「不足気味」超に転じている。

また、業種別にみると、製造業は「不足気味」超幅が縮小し、非製造業は「不足気味」超に転じている。

先行きについては、大企業、中堅企業は「不足気味」超で推移する見通し、中小企業は12月末に均衡となるものの、3月末に再び「不足気味」超に転じる見通しとなっている。

《表4》従業員数判断BSI

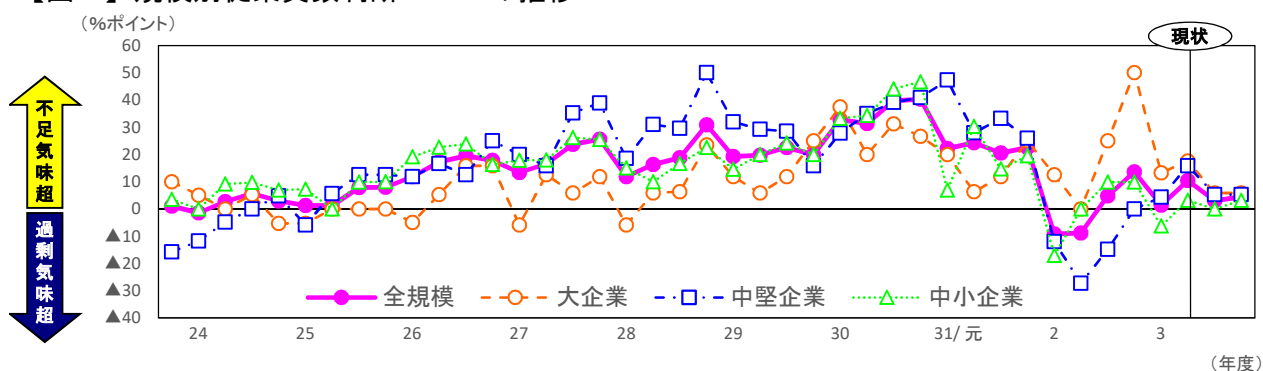
(期末判断「不足気味」-「過剰気味」社数構成比)

(単位:%ポイント)

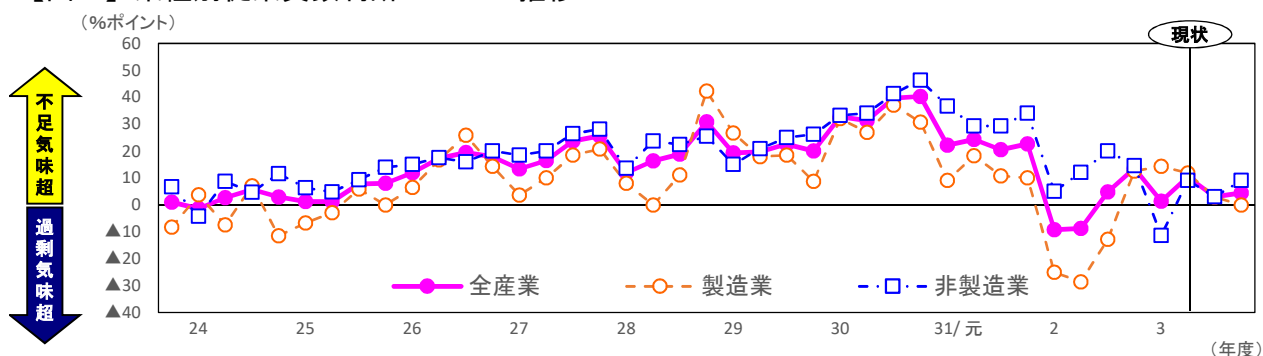
	3年6月末	3年9月末	3年12月末	4年3月末
全規模・全産業	(1.4)	10.4 (5.7)	3.0 (11.4)	4.5
大企業	(13.3)	17.6 (13.3)	5.9 (6.7)	5.9
中堅企業	(4.3)	15.8 (13.0)	5.3 (13.0)	5.3
中小企業	(▲ 6.3)	3.2 (▲ 3.1)	0.0 (12.5)	3.2
製造業	(14.3)	11.8 (17.1)	2.9 (17.1)	0.0
非製造業	(▲ 11.4)	9.1 (▲ 5.7)	3.0 (5.7)	9.1

(注) () 書は前回(3年4~6月期)調査結果。

【図3】規模別従業員数判断BSIの推移



【図4】業種別従業員数判断BSIの推移



4. 国内の景況

－ 現状判断は、「下降」超幅が縮小 －

3年7～9月期の国内の景況判断BSIをみると、全規模・全産業ベースで「下降」超幅が縮小している。

これを規模別にみると、大企業は「上昇」超から均衡となり、中堅企業は「下降」超から均衡となり、中小企業は「下降」超幅が縮小している。

また、業種別にみると、製造業は「上昇」超に転じ、非製造業は「下降」超幅が拡大している。

先行きについては、大企業は10～12月期に「上昇」超に転じる見通し、中堅企業は10～12月期に「下降」超に転じるものの、1～3月期に「上昇」超に転じる見通し、中小企業は「下降」超で推移する見通しとなっている。

《表5》国内の景況判断BSI

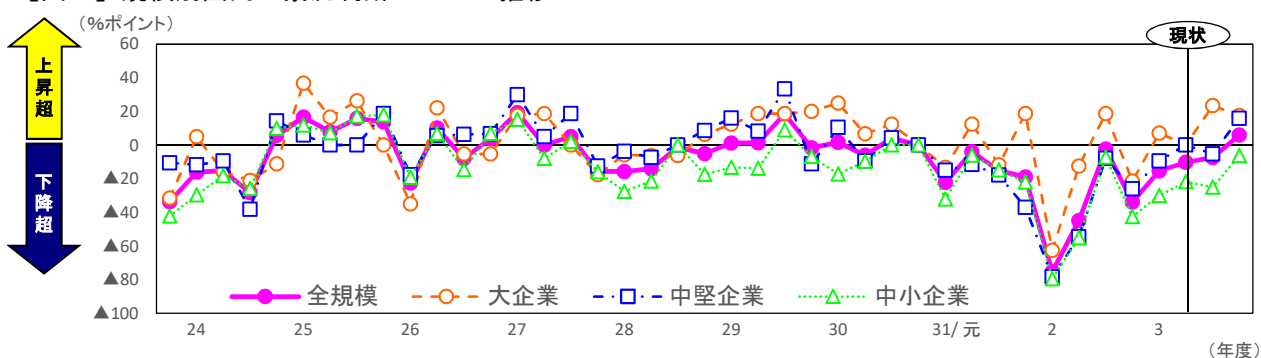
(前期比「上昇」-「下降」社数構成比)

(単位:%ポイント)

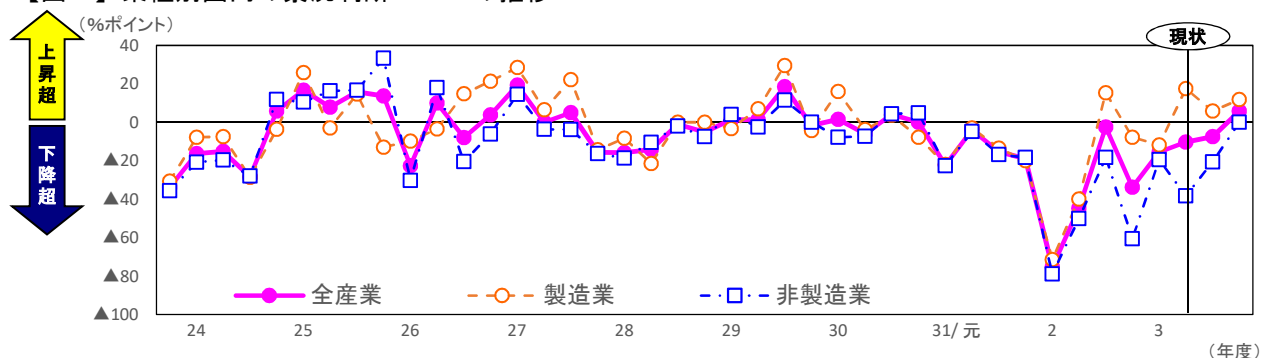
	3年4～6月	3年7～9月	3年10～12月	4年1～3月
全規模・全産業	(▲15.4)	▲10.3 (▲3.1)	▲7.4 (▲13.8)	5.9
大企業	(▲7.1)	0.0 (▲0.0)	23.5 (▲21.4)	17.6
中堅企業	(▲9.5)	0.0 (▲4.8)	▲5.3 (▲33.3)	15.8
中小企業	(▲30.0)	▲21.9 (▲10.0)	▲25.0 (▲3.3)	▲6.3
製造業	(▲11.8)	17.6 (▲2.9)	5.9 (▲23.5)	11.8
非製造業	(▲19.4)	▲38.2 (▲9.7)	▲20.6 (▲3.2)	0.0

(注) () 書は前回(3年4～6月期)調査結果。

【図5】規模別国内の景況判断BSIの推移



【図6】業種別国内の景況判断BSIの推移



5. 設備判断

－ 現状判断は、「不足」超に転じる －

3年9月末時点の設備判断BSIをみると、全規模・全産業ベースで「不足」超に転じている。

これを規模別にみると、大企業は「不足」超幅が拡大し、中堅企業は引き続き均衡となり、中小企業は「過大」超幅が縮小している。

また、業種別にみると、製造業は「不足」超に転じ、非製造業は「不足」超から均衡となっている。

先行きについては、大企業は「不足」超で推移する見通し、中堅企業は12月末に「過大」超に転じるものの、3月末に再び均衡となる見通し、中小企業は「過大」超で推移する見通しとなっている。

《表6》設備判断BSI

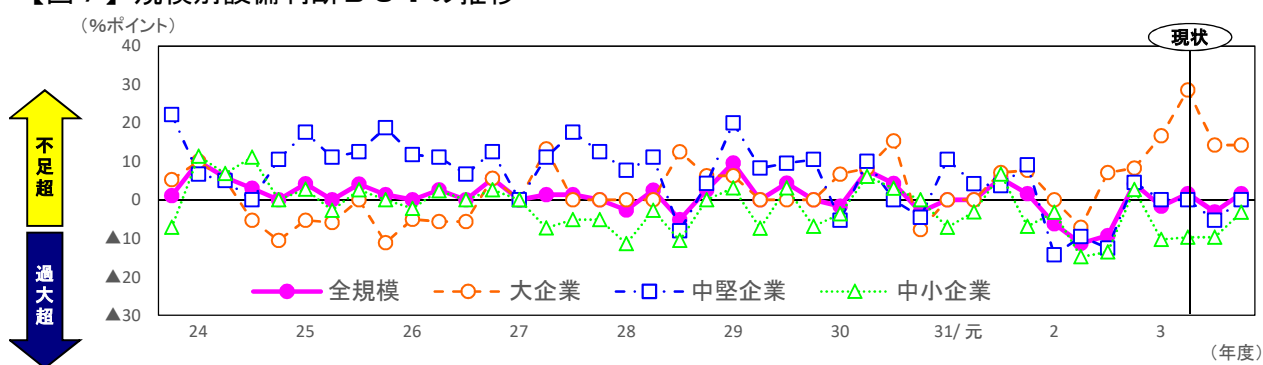
(期末判断「不足」-「過大」社数構成比)

(単位:%ポイント)

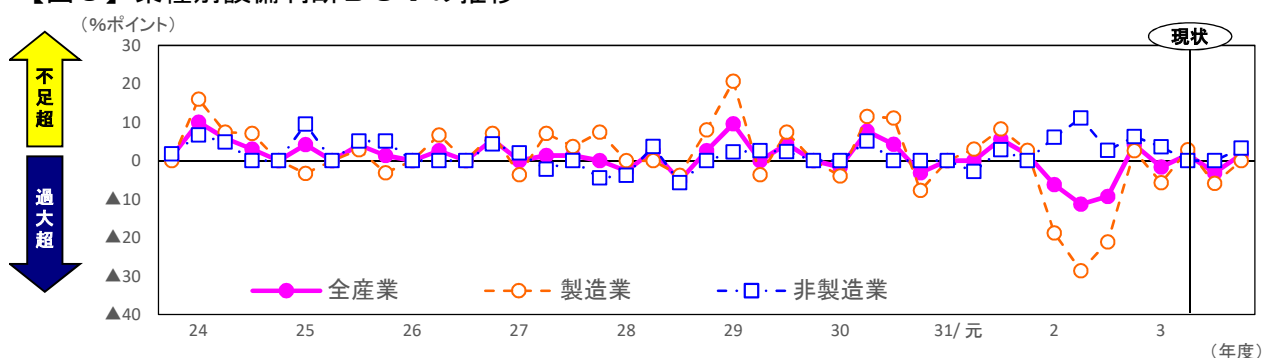
	3年6月末	3年9月末	3年12月末	4年3月末
全規模・全産業	(▲ 1.6)	1.6 (3.2)	▲ 3.1 (4.8)	1.6
大企業	(16.7)	28.6 (8.3)	14.3 (8.3)	14.3
中堅企業	(0.0)	0.0 (9.1)	▲ 5.3 (9.1)	0.0
中小企業	(▲ 10.3)	▲ 9.7 (▲ 3.4)	▲ 9.7 (0.0)	▲ 3.2
製造業	(▲ 5.7)	2.9 (5.7)	▲ 5.9 (5.7)	0.0
非製造業	(3.6)	0.0 (0.0)	0.0 (3.6)	3.3

(注) () 書は前回(3年4~6月期)調査結果。

【図7】規模別設備判断BSIの推移



【図8】業種別設備判断BSIの推移



6. 設備投資の対象

今年度における「設備投資の対象」を全規模・全産業ベースでみると、回答の多い順に「生産・販売等の機械及び装置（⑤を除く）」、「工具、器具及び備品」、「情報機器」となっている。

これを規模別にみると、大企業は「工具、器具及び備品」、中堅企業、中小企業は「生産・販売等の機械及び装置（⑤を除く）」をあげる企業が最も多い。

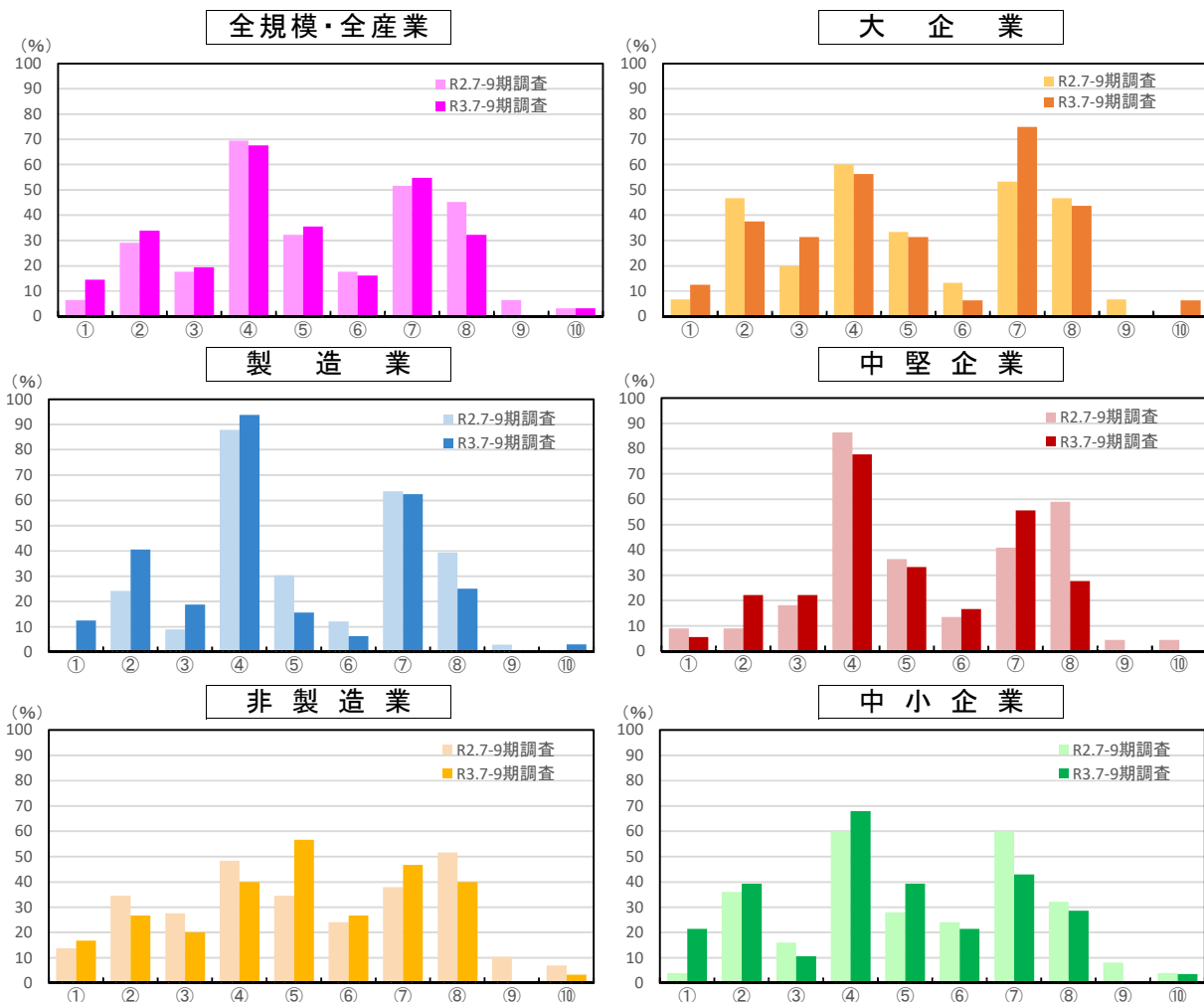
また、業種別にみると、製造業は「生産・販売等の機械及び装置（⑤を除く）」、非製造業は「情報機器」をあげる企業が最も多い。

＜表7＞設備投資の対象（1社3項目以内の複数回答）

（回答社数構成比：%）

	①建物 (本社・支社等の 内部管理用)	②建物 (工場・店舗等の 生産・販売等用)	③建物以外の 構造物・構築物	④生産・販売等の 機械及び装置 (⑤を除く)	⑤情報機器	⑥車両、船舶及び 航空機等	⑦工具、器具及び 備品	⑧ソフトウェア	⑨土地	⑩その他
全規模・全産業	14.5	33.9	19.4	67.7	35.5	16.1	54.8	32.3	0.0	3.2
大企業	12.5	37.5	31.3	56.3	31.3	6.3	75.0	43.8	0.0	6.3
中堅企業	5.6	22.2	22.2	77.8	33.3	16.7	55.6	27.8	0.0	0.0
中小企業	21.4	39.3	10.7	67.9	39.3	21.4	42.9	28.6	0.0	3.6
製造業	12.5	40.6	18.8	93.8	15.6	6.3	62.5	25.0	0.0	3.1
非製造業	16.7	26.7	20.0	40.0	56.7	26.7	46.7	40.0	0.0	3.3

【図9】設備投資の対象



7. 大規模災害や感染症等による事業中断リスクに備えた取組

「大規模災害や感染症等による事業中断リスクに備えた取組」を全規模・全産業ベースで見ると、回答の多い順に「Web会議やテレワーク等の導入・拡充」、「設備や情報システムへの投資」、「国内拠点の強化」となっている。

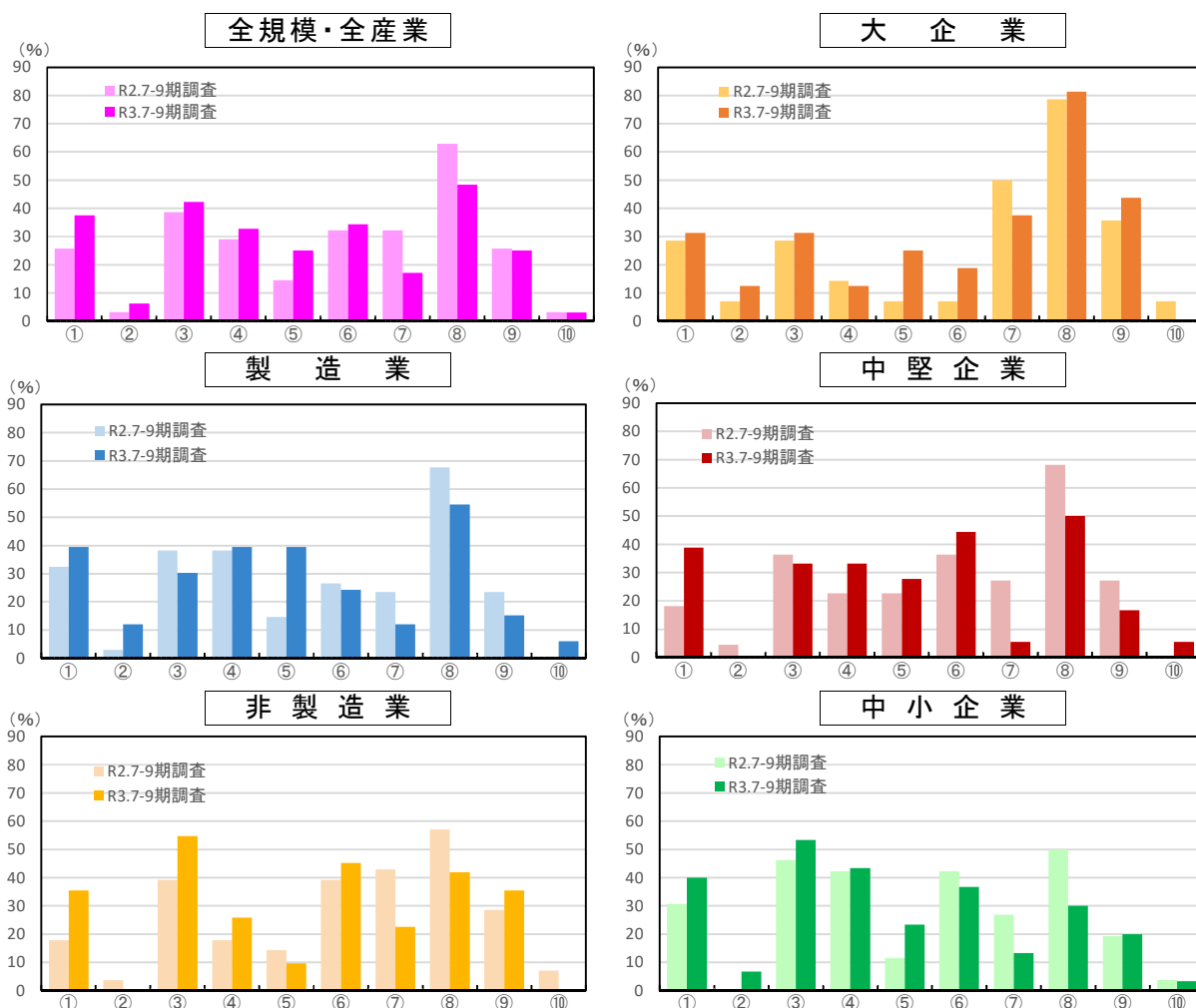
これを規模別にみると、大企業、中堅企業は「Web会議やテレワーク等の導入・拡充」、中小企業は「設備や情報システムへの投資」をあげる企業が最も多い。

また、業種別にみると、製造業は「Web会議やテレワーク等の導入・拡充」、非製造業は「設備や情報システムへの投資」をあげる企業が最も多い。

《表8》大規模災害や感染症等による事業中断リスクに備えた取組（1社3項目以内の複数回答）（回答社数構成比：%）

	①国内拠点の強化	②海外拠点の強化	③設備や情報システムへの投資	④原材料や商品等の調達先の多様化	⑤適正な在庫水準の引上げ	⑥資金調達手段の確保、災害保険への加入	⑦遠隔サービスの拡充等の顧客対応手段の多様化	⑧Web会議やテレワーク等の導入・拡充	⑨フレックスタイム制等の勤務体制の見直し	⑩その他
全規模・全産業	37.5	6.3	42.2	32.8	25.0	34.4	17.2	48.4	25.0	3.1
大企業	31.3	12.5	31.3	12.5	25.0	18.8	37.5	81.3	43.8	0.0
中堅企業	38.9	0.0	33.3	33.3	27.8	44.4	5.6	50.0	16.7	5.6
中小企業	40.0	6.7	53.3	43.3	23.3	36.7	13.3	30.0	20.0	3.3
製造業	39.4	12.1	30.3	39.4	39.4	24.2	12.1	54.5	15.2	6.1
非製造業	35.5	0.0	54.8	25.8	9.7	45.2	22.6	41.9	35.5	0.0

【図10】大規模災害や感染症等による事業中断リスクに備えた取組



<参考資料> 企業収益の全業種集計

《表9》 企業収益（全業種、3年度）

売上高:含む「電気・ガス・水道業」、除く「金融業、保険業」

経常利益:含む「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」

(前年比増減率:%)

	売 上 高	経 常 利 益	
		(受取配当金を除く)	
全規模・全産業	25.1 (14.3)	91.8 (107.1)	138.2 (127.4)
大 企 業	29.7 (18.2)	96.1 (127.4)	165.3 (152.8)
中 堅 企 業	19.0 (15.7)	37.1 (73.9)	66.8 (88.3)
中 小 企 業	0.8 (1.2)	18.6 (20.2)	19.9 (20.7)
製 造 業	28.1 (17.4)	86.0 (86.2)	101.2 (95.8)
非 製 造 業	▲ 0.1 (▲ 0.7)	563.1 (487.1)	998.0 (*)

- (注) 1. () 書は前回(3年4~6月期)調査結果。
 2. 「金融業、保険業」の売上高は調査対象外。
 3. 「*」は黒字転化を示す。